

本願寺 御歴代門主シリーズ

その二十

本願寺第二十一代宗主

明如(みょうにょ)上人 (一八五〇年～一九〇三年)

明如上人は一八五〇(嘉永三)年、第二十代広如上人のご子息としてご誕生されました。

一八七二(明治四)年に広如上人ご往生の後を承け、二十二歳で本願寺第二十一代の法灯を継職されました。

当時の日本社会は明治政府により神道が国教として定められ、祭政一致の国家政策がなされた時代でありました。

その明治政府の政策のもと、国民に対して尊皇愛国思想の教化(大教宣布)をするための機関として「大教院」が設置され、その教導職として政府は明如上人に「大教正」を任命しました。

しかし明如上人は学僧島地黙雷(しまじもくらい)師らとともに、本願寺教団の大教院離脱運動を展開しました。

その後、政府が政教分離の方針を取ったため、一八七五(明治八)年に大教院は廃止されました。

明如上人は近代社会への変動に対応した教団再編成を図り、宗門の一層の発展のため本願寺事務所を築地本願寺御坊に移すことを計画されました。



本願寺第二十代宗主 明如(みょうにょ)上人

しかしこの問題は教団内のみならず、京都府知事まで巻き込んだ大騒動となり計画は中止となりました。

また、一八八一(明治十四)年帝国議会の開設より十年早く、日本初の選挙制による宗門運営の議会制度「集会(しゅうえい)」(宗会)が開設されました。

また明如上人は、学校制度の改革、有望な若手僧侶の欧州派遣、海外開教、刑務教誨、軍隊布教、各種財団の設立など、新しい時代に対応した教団の発展に努められました。

明如上人のご在職は三十二年間におよびましたが、一九〇三(明治三十六)年一月十八日五十四歳にて浄土へご往生されました。

※参考文献 福間光超著

「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要 (善教寺本堂)

十月 十六日(木) 午後一時半

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「護持会報恩講」 (善教寺本堂)

十月二十五日(土) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 小泉信了師(兵庫県たつの市浄泉寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

「報恩講」 (善教寺本堂)

十二月 二日(火) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 天野真隆師(兵庫県揖保郡善導寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

*お接待当番地区 中郷地区



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール zenkyo@otera.or.jp